



串木野高校校長です。よろしくお願いいたします。

今回のテーマは、「 **バレンタインデー** 」です。

本日、2月14日はバレンタインデーですね。

昔、担任をしていた頃、言っていたジョークがあります。

「本日は、バレンタインデーです。私は、今日は、軽トラで学校に来ているので、もらったチョコレートは、全て持って帰ることが出来ます。」

って終礼で言ってみたら、・・・しーん・・・、となったことがありました。(T_T) プレッシャーになったのかも・・・

ははは、と笑って欲しかったのですが、残念でした。(ええ、もちろんクラスの生徒からは何も貰っていません。)

バレンタインデーは、「チョコ」をプレゼントすることが、

・女性が、恋する男性へ

という時代から、

・会社内で、世の中がそうだから、義理で渡さねば・・・

←これって今ではハラスメント系かも？ですね。

という時代を経て、

・男女関係なく、お友達同士で

となりながら、

・家族内で、ちょっとした感謝の気持ち、ギフトを

と変わっているのでしょうか。きっと。



経済学的には、チョコレート業界(販売や製造)は、この日に年間の半分以上を売り上げるそうで、やはり大きなイベントなのでしょう。

しかしながら、その原料となるカカオは、生育不良などの影響を受け、昨年比、150%の値上がりをしているそうです。これでは売るのは難しくなりますよね。

ということで、バレンタインデーとチョコレートを巡る問題をピックアップします。

(美味しいチョコレートには、世界経済が絡んだ、難しい問題を孕んでいます。)

- ・2023 年のバレンタインチョコレートの経済効果は、約 1083 億円
- ・バレンタインにチョコレートを贈りましょう、という日本の企業広告がスタート
- ・菓子メーカーがキャンペーンを仕掛けて、マスコミが広げていったという図式
- ・チョコレートの原材料は、カカオ。産地は西アフリカ。
- ・西アフリカでは森林破壊の主要要因は、チョコレート産業のカカオ栽培。
- ・コートジボアールでは、熱帯雨林が、国土の25%から、現在4%未満に激減している。
- ・カカオは、ガーナも産地で、熱帯雨林を少しずつ焼いて、畑にしている。
- ・チョコレートはカカオだけでは作れず、プランテーションによるパーム油も必要
- ・そのパーム油は、インドネシアも産地になっている。
- ・コートジボアールとガーナでは、156万人以上の児童が、カカオ栽培に従事している。
- ・カカオ農家の低賃金、それは企業が買い叩くことから悪循環になっている。
- ・気候変動の可能性 それにより生産国がカカオ栽培に適さない気候になってしまうかも。
- ・食べないことが正解というわけではなく、フェアトレード(適正価格での輸入)の購入
- ・買い物(購買行動)は、投票と同じ行動と考える。

など、幅広い、深い問題があることが分かります。混沌とした現在の世界です。バレンタインデー、チョコレート一つとっても、じっくりと考えることは重要です。

串木野高校 頑張っています。

校長 堂蘭